



書影  
144

相傳過口の著家二期と推察

一書郵記二浦子印海部

後向家子と掛念と定

の腹巻の程抑も母といひ位

積言來人の接話極めて

の健之奉新中第之控

函分似標多増し玉も然

御婦人方は如何の氣

絶する也美一信謂ふ骨

やみ等の不被来年かと

のあ

中一儲及に全くつきの病

やみつきに不徳年十九と

心あはし

ゆき及ぶまじくつきの為

海海の麻衣ふ、魁のてり程事

染心陰、蘇はま、般

孰きも奮勵をあらはし

力多多の結と井き、海

至りぬふ、通つま、経信

の才りく、海海、力、所

ふか、夜十から、むら、は、七、本

は、く、も、あ、ら、す、ら、も、免

と、角、西、平、を、後、海、の、地、を

た、さ、ら、く、あ、ら、す、今、は、な、あ、る、無

手、す、く、き、事、件、の、言、心、善

と、原、野、と、り、あ、り、井

魚、あ、ら、む、純、中、等、を、於

子、す、く、き、考、を、院、を、物

計、あ、ら、は、し、た、を、川、を

、信、賢、島、本、の、大、函、記、は

持、ち、能、は、き、ま、る、も、ま、る、の、て

中、費、の、た、り、中、に、改、る

計事改し指を川を

信成身本の古函記は

為る能はさるもまゝのそ

中書「為る」改る

念ざり今後流る海を

等とせ証書と看し今記

書若葉の葉大層の編

及ふ又詰括とあり

厚くともわくせよ花の

草の場とまじの年

流るるまじり一揃舞

何處之海と無かれ

下指の指と後をゆて

与葉を在ていまぬ出

孫傳命一舟癩のみ

起す比と水は田舎

能程面らるるまじ

末はまじり

園様とまじり風

厚くお世話に感謝の  
事、場と違ふの申、  
諸君もよく一々、  
向ふ之海に無かれ  
し、橋の橋、後、  
と、柔に在て、  
お供へし、舟、  
起す、比、水、  
舟、  
末、  
園、  
と、  
才、  
二月、

直林

大隈大兄様